

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200586		
法人名	医療法人 和楽会		
事業所名	あいあいフレンドリー さくら		
所在地	倉敷市串田660番地		
自己評価作成日	令和1年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200586-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和1年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や田畑に囲まれた自然豊かな場所に広い敷地を有し、近隣には公園や自転車道もあって、散歩コースに恵まれています。日々の生活は、出来る範囲で家事を手伝っていただいたり、壁画を作成したりして、生きがいをもちつつも、ゆったり穏やかに過ごしていただるように援助しています。また、地域の民謡クラブの方による民謡教室や、ボランティアによる音楽教室、その他季節ごとのイベントや月ごとのお誕生日会、足の神様へのお参りなどもあり、楽しんでいただいています。食事は、併設のデイサービスの厨房に主菜、副菜の調理を委託しており、季節や行事を感じられる料理を提供しています。施設内には診療所もあり、定期的に受診していただくとともに、日々訪れてくれる医師や看護師との医療連携も図れており、適切な健康管理が行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は医療法人であり、同一敷地内には老人保健施設や各種の事業所を配置している。地元の信頼は厚く、地域における医療・福祉の拠点となっており、利用者や家族の安心に繋がっている。利用者は、自分の得意とする手作り作品を作ったり、ゆったりとソファに座り、テレビを見たり、洗濯物をたたんだり、他の人との会話を楽しんだり、それぞれが思い思いの過ごし方をしている。職員は年齢層の幅が広く、勤務年数の長い方が多い。職場の人間関係は良好で、今後の長い就労を望む職員が多いようだ。これからも利用者と職員が馴染みの関係を保ち、大きな家族として、お互いの喜びを分かち合える関係作りを期待をよせる。

fukusino

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は名札の裏のカードに記入されている。グループホーム独自の理念もあり、ホールや台所など職員の目のつくところに貼って確認、共有できるようにしている。	理念に沿った、笑顔を絶やさず、「共に共感できる1日」が過ごせることを大切に、日々の支援の充実を図っている。理念はいつでも確認できるように、各職員の名札の裏面や、見やすい場所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民謡クラブの方による、「民謡教室」を月に1回開いており、年に数回ボランティアの方による演芸など、地域行事への参加も進んで行っている。また、地元の小学生の来苑もある。	地域の人による「民謡教室」が毎月開かれている。公民館の行事に参加したり、小中学校の児童や生徒が、ボランティアや社会学習で訪れたり、自然な地域との交流が来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターを基点として、地域の民生委員や老人クラブ、婦人会等と認知症の理解支援の方法を話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、婦人会、ご家族様、支援センターの職員、近隣のグループホームの方などに参加して頂き、2か月に1回会議を開催し、近況報告を行うとともに情報交換や意見を伺っている。	各方面からの参加があり、利用者の生活状況や、事業所の現況・課題などが話し合われ、事業所のサービス向上に繋がっている。家族参加の声掛けをしているが、参加が少なくなっている現状がある。	運営推進会議に前向きに取り組まれている。今後は更に、家族の継続的な参加を促し、行政・地域・家族とが連携して、事業所を支える会議となることに期待をよせる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、事故報告や現状報告を行っている。	地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加してくれる。そこで市からの情報提供や研修案内がある。日頃から協力関係作りに努め、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	近くに川があったり、少し歩いたところに車の通行の多い通りもある為安全を考慮し玄関は施錠させていただいている。身体拘束については、定期的に勉強会を行い、防止についての意識づけと、そのリスク等について職員間で意見交換している。	日々の支援実践の中で話し合い、身体拘束への理解と情報共有に努めている。周囲の自然環境に配慮して、やむを得ず玄関は施錠しているが、安易に、当たり前にならないように、話し合いを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内では定期的に勉強会を行い、防止への意識づけと周知徹底を図っている、また、事業所として「接遇マナー委員会」に月に1回代表者が参加し意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の利用者が後見人制度を利用している。定期的に緊急時の連絡方法などを確認させて頂きその内容を職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に書面に沿って分かりやすく説明を行い、その際、疑問等あれば申し出いただき説明している。理解納得後に同意のサインをいただいている。改定の際も文章にて説明、サインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。直接要望を伺った時も職員全体で共有し、ケアの統一に努めている。また、運営推進会議への出席も求め意見を伺うようにしている。	家族の来訪時や連絡時に、意見や要望を聞くように心がけている。利用者の生活に関する事柄が多く、職員間の情報共有とその反映が図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内管理者会議で現状報告すると同時に職員の意見、提案等ある場合は発表している。グループホーム内でもカンファレンスを開催、意見を聞く機会を作っている。	毎月管理者がユニット間の情報交換を行い、職員の情報共有と、意見の汲み上げに努めている。上層部への提案もしやすく、迅速な対応が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年2回、自己評価、課業チェックを行い、その内容を把握している。グループホーム内では、事業所の代表者や施設長との面談の場を設け、話を聞く時間を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修も含め、事業所内の勉強会へも積極的に参加し、その内容について、他の職員へも伝えるようにしている。研修への参加は概ね勤務扱いとなる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修へ積極的に参加をすすめ、個々のネットワークを作るとともに、近隣のグループホームとはお互いの運営推進会議に参加して、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の訴えだけでなく一人ひとりの表情、様子の変化を出来るだけ早めにキャッチし声掛けをしている。ご本人様が要望を言えない場合は時間をかけて行動を観察し要望を見つけるように工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にご家族様にしっかり要望を聞き、それに沿ってサービスを検討する。健康管理は主治医や病院と連携をとり安心、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容を入居時ご本人様、ご家族様に説明し特徴効果を理解していただいたうえで、同意を頂き当苑での生活に慣れて頂けるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員や施設本位の生活にならないよう、それぞれの生活リズムに合わせた暮らしを提供し共同生活を行う上で、お互い協力、助け合えるような環境を作り、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はご本人様の状態を伝え信頼関係を作り、どのように支援していくかを一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に、また会いに来てもらえるような雰囲気づくりや声掛けを行っている。同施設内の交流も図り、馴染みの方に会いにいっている。	今までの暮らしや、利用者の思いに添った対応に努めている。家族と一緒に行きつけの美容院に行ったり、買い物に出かけたりする人もいる。また、手紙や年賀状を出したり、携帯電話を自分で使う人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性の把握に努めている。入居者同士の会話の様子を見守り、または間に入るなど、トラブルを事前に防止するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも相談していただけるよう日頃からご家族様と接するよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様から希望を聞き、少しでも希望する生活に近づけるよう職員間で定期的に検討する。	利用者一人ひとりのペースに合わせて、その人らしく過ごせるように、職員間で情報を共有して、実践につないでいる。意思表示が困難な人にはその表情や行動から判断し、思いに添った支援提供を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の思い出の物や馴染みのあるもの、ご家族様の写真などを居室に飾ったり、置くなどの工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録に残し、変わった事や注意すべき点は必ず申し送り、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日モニタリングをチェックし、ご家族様面会時には現状の報告と、意見を伺っている。ご本人様の状態、体調の変化によっては、プランの見直しが必要かどうかカンファレンスを行っている。	プランに沿ったモニタリング表に、日勤者がチェックをし、それを1か月毎に職員間で、評価・検討している。それをカンファレンス会議で総合的に話し合い、利用者の現状に即した介護計画の作成が出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一ヶ月のモニタリングの評価を各職員で行い、それにより得た情報について必要であればカンファレンスを行い、介護計画の見直しに役立てる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の希望に沿って、個々に合った支援を職員間で話し合い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方にきていただき、地域との交流を深めている。また、参加できる地域行事に赴くなど資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設内に診療所が内設しているので、体調管理や緊急時には即座に対応できるよう、ご本人様及びご家族様の希望のかかりつけ医とグループホームと診療所で連携をとっている。	法人内の医師がこまめに訪れており、利用者の健康面や医療面での安心が図られている。他科受診やかかりつけ医への受診は職員が同行し、家族への連絡や職員の情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師によるバイタルチェックの訪問があり、入居者様の現状を報告するとともに、分からない事があれば相談し適切な処置を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は利用者様が不安にならないように面会をし、また、ご家族様とも連絡をとり寄り添えるように努めている。利用者様の様子について病院関係者と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様、ご家族様と話し合いをし、書類を作成している。定期的にご本人様、ご家族様に意向の確認を行い、体調の重度化がみられた時は主治医からご家族様に説明があり、終末期の対応指針を作成している。	利用者の状態の変化に伴い、医師や家族、関係機関と話し合い、大きな家族として寄り添いながら、本人や家族の思いを尊重した対応に努めている。医師の許可の下、重度化が進んでも、他利用者と共に過ごせるような対応を心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故の際、速やかに対応が出来る様、緊急連絡先や初期対応のマニュアルがあり、定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定で避難訓練の実施を行っている。	火災の夜間避難訓練を年に2回実施し、消防訓練は専門事業者が指導している。民生委員や地域の人に協力を依頼し、法人全体での取り組みがなされている。災害マニュアルが整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のやりたいことを尊重した生活、あるがままの存在を受け入れ、入居者の心に寄り添い共感し、尊敬の念を持って接するよう努めている。	職員は穏やかで優しく声かけし、利用者それぞれの特性を十分に理解して受け入れ、寄り添うことを心がけている。利用者は自分のペースでゆったりと過ごしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の可能な入居者様には、ご希望にそえるようその都度伺い対応している。意思表示が難しい入居者様には、表情や行動などで希望をくみとり対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個性を大事にし、一人一人の生活リズム、趣味、好みが異なるので型にはめてしまうのではなく、一人一人のペースを見極めて無理なく楽しく過ごせるよう職員間で話し合い、工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて定期的に衣替えを行い、機能性だけを重視するのではなく、好みの服装や髪型などご本人様、ご家族様と相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員が一緒にテーブルに着き食事をしている。利用者様に心配りし常に食べやすい様に配慮し、楽しい雰囲気作りをしている。可能な入居者様には、後片付けのお手伝いを共にしていただいている。	法人内の厨房で作られた、美味しい家庭料理が提供されている。自由献立の日やおやつ作りの日があり、職員と共に調理をする機会を楽しんでいる。利用者は下膳などの出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量、水分摂取量を記録に残し、状況に応じて栄養士と相談しながら形態を変更している。また、経口補水液のOS-1や高カロリー食材を取り入れたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い必要に応じて口腔内チェック、仕上げ等の介助を行っている。希望者には、歯科往診が利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方や移動、移乗介助の必要な方へは、トイレでの排泄が行えるよう動きを見て随時誘導したり、定期的に誘導を行い支援している。	入居時の情報をもとに、本人の排泄スタイルを確認し、それぞれの状況にあった声かけ・誘導を行い、排泄支援の自立に努めている。現在おしめを使用している人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便確認をし、下痢や便秘が続く際には主治医に相談して薬での改善を図っている。その他体操や水分ミルミル等も飲んでいただき、適切な摂取など工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調により週2~3回の入浴、体力に応じて入浴時間を調整したりシャワー浴や清拭を行っている。	日曜日以外で希望に応じて、午前、午後を問わずに、いつでも入浴出来る。職員は本人の思いを大切に、楽しく入浴して欲しいと思っている。季節を感じる、ゆず湯の提供もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の様子を見ながら居室で休息していただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している内服薬については、効能など表にし確認できるようにしている。主治医より薬の変更指示があった際は連絡ノートで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、掃除、洗濯物を干したり、たたんだりを手伝っていただいている。壁画の作成やイベントの作品作りも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出希望に応じて対応している。(届出書を記入してもらう)時候の良い時は苑周辺を散歩したり、ドライブや近くのスーパーへ買い物に出かけたりしている。	由加神社で行われる敬老感謝祭に家族と共に出かけ、無病息災を祈り、あんころ餅や芋粥をふるまわれ楽しんだ。ドライブがてらに種松山を訪れ桜や紫陽花、バラを鑑賞することもある。職員は気候が良くなれば、日常的な散歩も組み入れたいと思っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方は自己管理していただいている。ご本人様、ご家族様の希望があれば施設にて預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙はご本人様ご家族様の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は常に清潔を保つように努めている。施設内では飾りつけなどを毎月変え、入居者様に季節を感じて頂けるよう心がけている。	温湿度に配慮した、天井が高く、広々とした空間であり、それぞれの居場所が提供されている。壁面を飾る利用者が作った作品は、その完成度の高さに驚かされる。グランドピアノが置かれ、音楽療法を実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様と会話をする場や、レクリエーションの参加、手作業をするなど、やりたいことを思い思いにできる環境や雰囲気作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では今まで使い慣れたものなどを使っていたいただき、本人様が居心地よく過ごせるよう工夫している。	洗面台とクローゼットが備え付けてある。大きな窓からは明るい光が差し込む。使い慣れた家具や家族写真、手作り作品などが置かれた、それぞれの個性を感じる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を出るとすぐに共用スペースがあり、いつでも行き来できる。安全に歩行、移動できるよう通路は広く、また、各居室からの生活導線上には物を置かないように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200586		
法人名	医療法人 和楽会		
事業所名	あいあいフレンドリー すずらん		
所在地	倉敷市串田660番地		
自己評価作成日	令和1年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoCd=3390200586-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和1年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や田畑に囲まれた自然豊かな場所に広い敷地を有し、近隣には公園や自転車道もあって、散歩コースに恵まれています。日々の生活は、出来る範囲で家事を手伝っていただいたり、壁画を作成したりして、生きがいを持ちつつも、ゆったり穏やかに過ごしていただけるように援助しています。また、地域の民謡クラブの方による民謡教室や、ボランティアによる音楽教室、その他季節ごとのイベントや月ごとのお誕生日会、足の神様へのお参りなどもあり、楽しんでいただいています。食事は、併設のデイサービスの厨房に主菜、副菜の調理を委託しており、季節や行事を感じられる料理を提供しています。施設内には診療所もあり、定期的を受診していただくとともに、日々訪れてくれる医師や看護師との医療連携も図れており、適切な健康管理が行われています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は名札の裏のカードに記入されている。グループホーム独自の理念もあり、ホールや台所など職員の目のつくところに貼って確認、共有できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民謡クラブの方による「民謡教室」を月に1回開いており、年に数回ボランティアの方による演芸もある。地元の小学生が見学に来たり公民館での行事に参加することもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターを基点として、地域の自治会や民生委員、婦人会等と認知症の理解支援の方法を話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、婦人会、ご家族様、支援センターの職員、近隣のグループホームの方などに参加して頂き、2か月に1回開催。近況報告を行い意見交換している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、事故報告や現状報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	近くに川があったり、少し歩いたところに車の通行の多い通りもある為玄関は施錠させていただいている。身体拘束については、定期的に勉強会を行い、防止についての意識づけと、そのリスク等について職員間で意見交換している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所として「接遇マナー委員会」の中で虐待防止を取り上げ、部署ごとに持ち回りで勉強会を開催している、施設内でも委員会を立上げ定期的に勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様が成年後見制度を利用して、施設とご本人様、関係者がいい関係作りを築くために話し合いの場を持てるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に書面に沿って分かりやすく説明を行い、その際、疑問等あれば申し出ていただき説明している。理解納得後に同意のサインをいただいている。改定の際も文章にて説明、サインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するとともに、面会時などにこまめに意見を伺うようにしている。その内容については職員全体で共有し、ケアの統一に努めている。また、運営推進会議への出席も求め意見を伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内管理者会議で現状報告すると同時に職員の意見、提案等ある場合は発表している。グループホーム内でもカンファレンスを開催、意見を聞く機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年2回、自己評価、課業チェックを行い、その内容を把握している。事業所の代表者やグループホーム内では、施設長との面談の場を設け、話を聞く時間を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、事業所内の勉強会へも積極的に参加するよう勧め、その内容について、他の職員へも伝えるようにしている。研修への参加は概ね勤務扱いとなる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加により、個々のネットワークを作るとともに、近隣のグループホームとはお互いの運営推進会議に参加して、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時等、ご本人様から困っている事や不安に思っている事をしっかり聞き取り、言葉での訴えがない場合でも過去歴や表情、行動から推察し、要望をみつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時等、不安なことや要望等をしっかり聞き取り、ご家族様にも安心してもらえるよう随時コミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、サービス内容をご本人様、ご家族様に説明し、納得していただいたうえで同意を頂き、当苑での生活に早く慣れて頂けるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身の回りのことなど自分で出来ることはしていただいている。また、家事等を個々のレベルに応じて振り分け、助け合いながら共同生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には今の状況を説明し、今後どのように支援していくかを一緒に考えている。また、外出や外泊の希望があれば対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に支障がない限り、友人や知人の面会にも応じている。以前通っていた併設のデイケアに出向き、友人との時間を楽しまれている方もおられる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のきっかけを作ったり、一緒に作業をしたり、レクリエーションやイベントに出席することで関わりをもち、孤立せず過ごしていただいている。また、トラブルを事前に防止するよう行動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも訪ねてもらおうよう声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を表現できない方もおられるが、表情や行動から気持ちをくみとり、一人一人の希望に沿った生活をして頂けるように努めている。得意な事や趣味を尊重している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から今までの生活等について色々とお話を聞かせて頂き、その人らしい生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を記録に残し、変わった事や注意すべき点は必ず申し送り、スタッフ全員で共通した現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日モニタリングをチェックし、定期的にケアの内容について話し合っている。プランの見直しについてはご本人様、ご家族様の意向をふまえ、その内容をもとにカンファレンスを行って作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を行動記録に記入し、一ヶ月のモニタリング表に基づいて現状を把握、情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の方の現況に合わせて、ご家族様との連携を図っている。体調変化やADLのレベル低下に対し細やかな対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺は自然に恵まれており、季節の花々も多い環境にある為、散歩に出かけたり、時には近場へドライブにも出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望により従来のかかりつけ医への受診を続行され場合もあるが、施設内の診療所とも連携し日頃の健康管理や緊急時の対応が行えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師による健康管理の訪問があり、入居者の状態で気になる事があれば相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は当施設の主治医が連携を図り、事業所としても介護サマリーを送付。入院中は医師間で情報交換が行なわれ早期退院が実現できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人様およびご家族様の意向を確認し書面にて同意を求めている。また、状態に変化があれば随時話し合いを行い、主治医の意見も反映させながら看取りのあり方について検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故の際、速やかに対応が出来る様、緊急連絡先や初期対応のマニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定で避難訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人に応じた言葉がけをし、相手の尊厳を傷つけないよう配慮した接し方をするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志表現できる方に対しては話しやすい環境づくりや選択しやすい言葉の提供を心掛けている。意志表示が困難な方には表情や行動から気持ちをくみとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを見極め、無理なく楽しく穏やかに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際、自分で洋服を選べる方とは、会話しながら一緒に選択している。カットや髪染め、化粧品の購入など、その人らしい身だしなみが行えるよう支援している。男性入居者には毎日ひげそりをすすめている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片づけなどを職員と一緒にを行い、やりがいを感じて頂いている。また、会話などしながら食事を楽しめるような雰囲気作りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量をチェックし、摂取量が少ない時は経口補水液OS-1や栄養価の高い物を取り入れながら脱水、低栄養にならないよう支援している。また、状況に応じて食事の形態も変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをし、必要に応じて仕上げ等の介助を行っている。義歯の場合2日に一回程度の消毒施行。希望に応じて、訪問歯科受診も可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の利用者様の排泄するタイミングにあわせ声かけしたり誘導して、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動で便秘予防に努めているが、それでも改善できない場合は腹圧マッサージを行ったり、主治医に相談して内服薬などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2~3回の入浴を行っている、身体機能のレベルに応じてシャワー浴や清拭対応となることもあるが、いずれにしてもさっぱりと気持ちよくなれることを目指して対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や体力に合わせて居室で休んだり、ソファでくつろいだりしていただいている。また、日中は無理のない程度にレクリエーションや体操で身体を動かしていただくことで、夜間の良眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や利用者様の現病と内服薬を記載した日常生活支援プラン表を利用し、把握できるように努めている。また、薬の変更があった場合には、申し送りノートに記入し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人に合った役割を見つけ、やりがいのある日常を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様からの外出希望に応じ、対応している。また、気候の良い時には、散歩やドライブをしたり、買い物に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様管理で買い物をする方、ご本人様、ご家族様の希望で施設で預かって買い物の際一緒に行く方、職員が任せられ買ってくる方などそれぞれの希望によって対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙はご本人様の希望に応じて対応している。携帯電話を持たれている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は常に清潔を保つように努めている。また、玄関や廊下の壁には、季節を感じていただけるような入居者様手作りの作品を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様との会話や作業ができる場を作り、一人で過ごしたい時には居室でくつろがれることも提案している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にご家族様の写真を飾ったり、面会時用のイスやテーブルを持ち込んだりして、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはそれぞれ工夫をこらした名札があり、自分の部屋であることが一目でわかるようにしている。また安全に移動できるよう生活導線上に歩行の妨げにならないよう家具の配置を工夫している。		